



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

**CWS JAPAN**

Church World Service

# NEWSLETTER No. 48



## ベトナム防災事業にてオンライン研修を継続中

CWS Japanは2020年2月より外務省の助成により、ベトナム北部の山岳地帯にて「チエムホア県災害レジリエンス向上事業」に取り組んでいます。本事業では（1）ハザードマップ作成、（2）コミュニティ防災マップ作成、そして（3）自主防災計画策定の三つの活動を軸としています。また、本事業はベトナム現地のパートナー団体に加え、日本の民間企業である国土防災技術株式会社とも連携し、実施している事業でもあります。本事業をとおして、洪水・土砂災害被害が多発する対象地のトゥエンクアン省チエムホア県における地方政府のリスクアセスメント並びにコミュニティの自主防災計画策定支援の能力強化を行い、地域の包括的な災害対応能力を向上させることを目指しています。

以前のニュースレターでもお知らせしましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大により、当団体スタッフの出張は感染リスク軽減のため自粛しています。ベトナム側は比較的感染状況は落ち着いていたため、感染予防策をとったうえで関係者に集まっていたいただき、日本側の講師陣はオンラインで参加するという研修形態を複数回、開催しました。

第三回目は8月25・26日に実施し、気象観測の概念、方法を学ぶとともに、自宅にあるペットボトルなどから簡単に作れる雨量を観測できる機器を参加者全員で作成しました。作成時には、参加者による様々な工夫がなされました。ほかにも、子どもが作成するときの注意点なども議論され、活発な意見交換がなされました。また、研修のなかでは、測る場所の留意点やまた毎日決まった同一のタイミングで測るなどの気象観測における重要な点についても学ぶ機会となりました。

（次項へつづく）

（ペットボトルで作成する雨量計）



2020年9月発行

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook  
twitter  
instagramでも  
情報発信しています！

最後のページを  
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館25号室

✉ public@cwsjapan.jp  
☎ 03-6457-6840

天然資源環境省 (MONRE)、省農業農村開発局 (DARD)、人民委員会、学校教師等から約17名が参加し、これまでの研修内容の復習と合わせて、活発な議論がなされました。

感染拡大リスクが懸念されるなか、現地に渡航し、個々の参加者との直接的なコミュニケーションを通じた研修は現時点では実施が難しいですが、やはり全ての知識や技術が遠隔ものではないことも事実です。明確な解で伝えられる決断は未だありませんが、Do No Harmの原則を守りつつ、質の高いインパクトの創出を目指すために、日々奮闘中です！

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

## アジア地域でコミュニティ主導による防災イノベーション促進事業 (CLIP) の準備を進めています

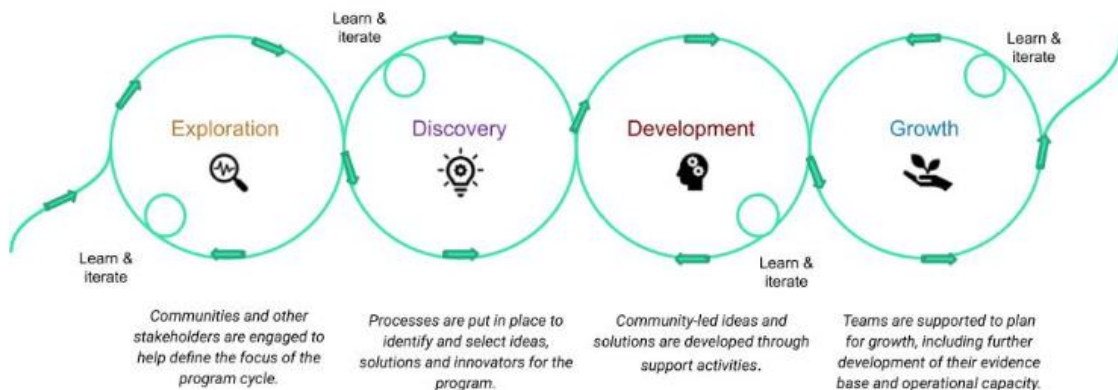
[NL7月号 \(No.46\)](#) でもお伝えしたアジア地域でコミュニティ主導による防災イノベーション促進事業 (CLIP) は、CWS Japanが加盟する[アジア防災減災NGOネットワーク \(ADRRN\)](#) とそのパートナーがイギリス政府の支援により実施する事業ですが、その設計フェーズがまもなく完了します。

これまでフィリピン、インドネシアの現地パートナー団体とともにコミュニティ主導の防災イノベーションを表出させ、拡大させるための設計を2か月間にわたり行ってきました。具体的には、どのような災害に関してどのような場面でイノベーションが必要なのか

を話し合い、そうした分野でイノベーションを起こす可能性のある人・組織 (イノベーター) についてパートナー団体が調査をしました。さらに、こうしたイノベーターが事業アイデアを生み出してから様々な関係者と協働して事業を成長させるまでにどのような支援が必要かについても分析しました。

皆さんは「防災イノベーション」というと、何を思い浮かべるでしょうか？ドローン技術を使った消防活動や気象衛星を駆使した洪水予測など、ハイテクなものをイメージするかもしれませんが、CLIPでは、コミュニティの人たちが普段から持っている様々な資源 (知見、ネットワークなどを含む) を駆使し、自分たちではできないと思われていた防災・減災活動を自らの力で行えるようになること、それをイノベーションと捉えています。ADRRNの[イノベーションハブ \(ATIH\)](#) を担うCWS Japanの役割は、地域のイノベーターがこれまで考えなかった新しい視点で問題を捉えなおし、自分たちの地域のなかに眠っている資源を使って何ができるかを考えられるように様々な方法で支援することです。9月末には、これまでの検討結果を提案書としてまとめ、イギリス政府に提出します。無事に承認されれば、10月の早い段階で本格的に事業が開始されます。CLIPの具体的な活動としては、イノベーターの発掘、イノベーターに対するワークショップ等を通じた問題分析やパートナーシップの構築の支援、コミュニティ調査等を目的とした助成金の提供などです。活動の内容については、次号以降のニュースレターでも詳細をお伝えしていきます。

## Community-Led Innovation Program



(コミュニティベースでイノベーションを育むプロセス図)

なお、今後CLIPを通じた経験から得られる学びはCWS Japan全体に還元し、自らの活動においてもコミュニティ主導によるイノベーションの視点を大切にしたい事業づくりを行えることを目指しています。

(文：イノベーションアドバイザー  
打田郁恵)

## ファンドレイジングジャパン 2020に登壇しました

9月5日から12日までオンラインで開催された[ファンドレイジングジャパン2020](#)にCWS Japanの五十嵐豪が登壇しました。ファンドレイジングジャパン (FRJ) は、様々な社会課題に取り組む活動のための寄付や社会的投資の最新動向を紹介し、資金調達やその最先端のサービスについての情報共有を目的として年に1度開催される世界有数のファンドレイジング (FR) の大会の一つです。五十嵐が登壇したセッションのテーマは「[エシカル \(倫理的\) ファンドレイジング](#)」でした。

FRというと、寄付集めをいかに効果的かつ効率的に行うかという手段や手法のイメージも強いかもしれませんが、災害支援や防災などの社会課題に取り組む上で、活動資金は必要になります。しかし、広義の意味でのFRでは、被災者や地域を直接的に支援するだけでなく、こうした課題が存在することを世の中に広く認知してもらい、同じ社会の一員として共に課題に取り組む共感を得ることが求められています。支援と共感の循環ができることで、持続的な社会の実現が可能になります。FRにおいては、いくら寄付を集めるかということだけが大事なのではなく、どのように集めて、どのように使い、それを説明するかということも同様に大切なのです。

エシカルファンドレイジングのセッションでは、前半に「NPOのための弁護士ネット

ワーク」創設者でもある樽本哲弁護士より、寄付者の信頼を得るための説明責任という視点からお話しいただきました。例えば、状況の変化により、特定の目的のために集められた資金を他の目的に使いたい場合は、団体はどうしたら良いでしょうか。たとえ「良い活動」を実施していたとしても寄付者に説明する責任が発生します。それでは、不正に集められたお金が寄付された場合、団体は受け取るべきでしょうか。また、団体内または関係者に何らかの不祥事が発生した場合、どのように寄付者に説明するべきでしょうか。団体と寄付者の関係性について、倫理的な視点から多くの論点が投げかけられました。

一方、CWS Japanの五十嵐からは支援対象者に対する説明責任という視点から、FRに倫理性についての課題が提起されました。例えば、災害や紛争の影響を受けたかわいそうな子どもの写真などを寄付広告に掲載すると、より多くの同情を呼び、寄付の拡大につながるかもしれませんが、こうしたネガティブなイメージやレッテルをその子どもに負わせてしまい、その子が希望や尊厳を持った人間であるという人間性の否定を助長してしまう可能性があります。また、こうした広告に使用されるということが、きちんとその子自身や保護者の合意を得られているでしょうか。こうした広告でより多くの活動資金を得ることができたとしても、団体の本来の目的に倫理的に反することになります。

CWS Japanの活動は、皆様からの温かい支援によって支えられています。これからも、皆様の信頼を得て、人間性を重視した支援ができるようにこれからも努めていきたいとお思います。今後ともご声援をよろしくお願いたします。

(文：プログラム・マネージャー

五十嵐豪)



CWSJapan



@Japan\_CWS



cws\_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！